

第5学年 外国語科 学習指導案

指導者 京都市立向島秀蓮小中学校 T1 5年担当 西井 慶
T2 ALT Luke Hoffman

1 単元名 Welcome to Kyoto! (“NEW HORIZON Elementary English Course 5” Unit 7 参照)

2 単元の目標

チームステージ(5、6、7年生のこと。以下「TS」)京都散策ウォークラリー(以下「WR」)で、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらうために、行きたい日本の場所やその魅力などの具体的な情報を聞き取ったり、京都の観光地について簡単な語句や基本的な表現を用いて内容を整理した上で話したりすることができる。

3 単元の評価規準[記録に残す評価のみ記載]

聞くこと	<p>知・Where do you want to go? I want to go to ... Why [What] do you want to ...? およびその関連語句について理解している。</p> <p>技・行きたい日本の場所やその魅力についてのやり取りを聞いて、具体的な情報を聞き取る技能を身に付けている。</p>
話すこと [発表]	<p>知・Where do you want to go? I want to go to ... Why [What] do you want to ...? およびその関連語句について理解している。</p> <p>技・行きたい場所や京都の観光地について、Where do you want to go? I want to go to ... Why [What] do you want to ...? およびその関連語句を用いて、考え方や気持ちなどを話す技能を身に付けている。</p> <p>思・外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらうために、行きたい場所や京都の観光地について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話している。</p> <p>態・外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらうために、行きたい場所や京都の観光地について、簡単な語句や基本的な表現を用いて話そうとしている。</p>

4 生徒について(向島秀蓮小中学校では、義務教育学校として1~9年生までを生徒という呼称で統一)

- これまでの単元を通して Small Talk に継続的に取り組み、既習表現を繰り返し活用しながら質問し合うことで、言語活動の際に聞き手として相手の話に興味をもち、内容に応じた質問ができるようになってきている。
- 自分の姿や音声について ICT を活用して確認したり、本時の振り返りや次の時間での目標を立てたりすることで、自己調整してさらなるレベルアップにつなげられるような個別最適な学びを選択できるようになりつつある。
- 自分の思いや考えを何とかして伝えようとする生徒が多いが、既習表現を使って自信をもって伝えることが難しい。

5 本単元と研究の視点との関わり

評価 【学習】	・「また京都に来たいと思ってもらうためにどんなことを伝えるとよいのか」と問い合わせ、生徒が相手意識、目的意識に常に立ち返りながら紹介を考えるように指導する。 ・「どのような質問をしたのか」「その質問にどのように答えたのか」と質問に焦点を当て情報を加えたり整理したりするなど、発表の工夫を引き出すように中間交流を進めていく。
【言語活動の充実】	・単元当初に自分の行ってみたい観光地についてやり取りした後に、単元途中で、その観光地について相手におすすめするという言語活動を設定する。本単元の使用表現のみでなく、【Check Your Steps 2】の「聞いて私の町じまん」の活動を入れることで、これまで学習してきた表現を活用しながら、観光地の魅力についてより豊かな紹介ができるようにする。 ・本校独自の反転学習において、自分が紹介したい内容について一方的に紹介している動画と、聞き手へ質問(Do you know ...)をしたり、間を考えなどをして紹介している動画を見比べて、観光客にまた来たいと思ってもらえるための内容や紹介の工夫について意識し、Communication timeなどで活用できるようにする。
小中連携 【小・中連携】	・Unit 4での町のおすすめの場所紹介時に使用した表現(I can ... We ... I like ... It is ...など)を本単元でも使用していくようにする。Small Talkや聞く活動を通して想起し、活用できるようにする。 ・小中連携授業で、第7学年の生徒から内容面での工夫につながるような質問やアドバイスをしてもらうことで、よりよい京都の観光地紹介していく。また、内容面だけでなく、紹介方法や観光客への声のかけ方などもやり取りを通じて気付けるようにする。

6 指導計画(記録に残す評価を行わない時間にも、目標に向けて指導を行う。また、生徒の学習状況を全時間において確認し、メモ等を取っておく。)

時	指導計画	評価(記録に残す評価)
適時	【Sounds & Letters】終わりの音に慣れ親しみ、複数の文字を書くことができる。	
1・2	単元の見通しをもち、どんな場所を紹介しているか聞き取ったり、尋ねたり答えたりして伝え合うことができる。	
3・4	行きたい日本の場所やその魅力についての具体的な情報を聞き取ったり、尋ねたり答えたりして友だちと伝え合うことができる。	聞:知技
5・6	【Check Your Steps 2】TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地などについて、内容を整理した上で話すことができる。	話[発]:知技
7(本日5限) 8(本日6限)	TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地などについて、内容を整理した上で話すことができる。	話[発]:思態
9	実際に TS 京都散策 WR で、外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地などについて、内容を整理した上で話すことができる。	

7 本時について(7/9)

(1)目標 TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地などについて、内容を整理した上で話すことができる。

(2)展開

	生徒の活動	指導者の活動	*留意点 ◇支援
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶 ○Small Talk 「おすすめのレストラン」 ○本時の流れとめあてを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ALTとのデモンストレーションで、声かけややり取りの方法を分かりやすく示す。 	<ul style="list-style-type: none"> *言語活動を通して指導し、既習表現でやり取りすることで、本時の学習で活用できるようにする。
TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地の魅力を伝えよう。			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○反転学習の内容を確認する。 「相手意識をもち工夫する視点」を意識する。 ○Step by step① 紹介内容の再構築を行う。 ○Communication time① 	<ul style="list-style-type: none"> ・Communication time で、「相手意識をもち工夫する視点」を意識できるように、全体で共有する。 ・生徒が自分で考えた内容を自己調整し、思い出して言えるように活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> *生徒の反転学習の答えを事前に確認し、内容を把握しておく。 *反転学習では、相手意識をもって紹介の順番を考えたり、また来たいと思ってもらえる紹介をしたりしている動画を事前視聴課題とする。気付いた良さについて全体共有することで、「相手意識をもち工夫する視点」をもつことができるようになる。
<p>S1: Where do you want to go in Kyoto? S2: I want to go to Toji Temple. S1: Oh, you want to go to Toji Temple. Nice. So, we have Kiyomizu-dera Temple. You can see Kiyomizu-no-butai. You can see momiji. It's beautiful. You can eat yatsuhashi. It's soft and sweet. It's delicious.</p>			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ○中間交流 「どんな質問をしたのか」 「質問にどのように答えたのか」 「また来たいと思ってもらえる紹介になっているのか」 ○Step by step② 紹介内容の再構築を行う。 ○Communication time② ・ペアを替えながら紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中間交流では質問について聞き、紹介内容を詳しくしたり、聞き手が興味をもったりするような工夫につなげられるように全体共有する。 ・再構築する際の参考として、前時の振り返りを全体共有する。 ・最後にはペアで録画することを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇個別最適な学びについての支援を ALT と共にしていく。 *観光客にまた来たいと思ってもらえる紹介になっているのかを前時までに確認し、本時でも意識できるようにする。 *活動途中でも、よい工夫があった場合は実況中継し、全体共有する。
<p>S1: Where do you want to go in Kyoto? S2: I want to go to Toji temple. S1: Oh, you want to go to Toji temple. Nice. So, we have Kiyomizu-dera Temple. Do you know it? You can see momiji in fall. It's beautiful. S2: Oh! I see. S1: You can see Kiyomizu-no-butai. You can eat yatsuhashi. It's soft and sweet. It's rice cake. I like the matcha flavor. It's delicious. What flavor do you like?</p>			
終末	<ul style="list-style-type: none"> ○振り返り 録画した姿を確認し、振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT で録画したものと振り返りを提出できるように用意しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> *時間があれば、振り返りを全体交流し、良さに気付くことができるようになる。

(3)評価(記録に残す評価)

話[発]:思態	TS 京都散策 WR で外国からの観光客に京都にまた来たいと思ってもらえるように、京都の観光地などについて、内容を整理した上で伝えている姿を確認する。(行動観察・振り返りカード分析等)
<p>「おおむね満足できる」状況と判断できる姿</p> <p>We have Kiyomizu-dera Temple. Do you know it? You can see Kiyomizu-no-butai. You can see momiji. It's beautiful. You can eat yatsuhashi. It's soft and sweet. It's rice cake. I like the matcha flavor. It's delicious. などの表現を用いて、京都の観光地などを伝えるために、関係のある内容や聞き手が興味をもてるような情報を付け加えたり、既習表現を生かして内容を整理したりするなどして話している。また、継続的に最後まで発表内容をよりよくしようとしている。</p>	

